



やらまいか

例会日：毎週火曜日 12：30 例会場：豊川商工会議所
 会長：井指光基 幹事：山城康司 SAA：笠原盛泰 会報委員長：小野喜明
 事務局：豊川市豊川町辺通4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889
 ホームページ <http://toyokawahoi.tank.jp> Email hoirc@sala.or.jp

本年度14回 通算第1040回 平成19年10月12日(金) 晴

ゲスト 地区ガバナー 江崎柳節さん(小牧) 地区幹事 河村嘉男さん(小牧)
 ビジター 浜松東RC1名 岡崎RC1名 豊橋RC5名 豊橋北RC1名
 豊橋南RC2名 豊橋ゴールデンRC6名 豊橋東RC3名 蒲郡RC1名
 田原パシフィックRC2名 豊川RC3名

出席報告 山城康司幹事

会員総数	計算会員数	本日の出席者数	本日の出席率	9/25修正出席率
57名	50名	22名	42%	92%

司会進行 蒲郡RC

ガバナー公式訪問合同例会

★歓迎の挨拶 三浦雅弘蒲郡RC会長



皆さん、こんにちは。ようこそ蒲郡にお越し頂きましてありがとうございます。心より歓迎申し上げます。

例会に先立ちまして、合同の会長幹事懇談会が開催をされました。ガバナーからは、今年度のガバナー方針や数々の的確なアドバイスを頂きました。我々も今後のクラブ運営の中で頂いたアドバイスを有効に充実していかなければならないと感じたところでもあります。

今年度、江崎ガバナーは、「ROTARY SHARE」を基本に地区の運営方針と致しまして、「違いをもたらそう」とスローガンを掲げられています。また、クラブに対しましては、5つの具体的な行動を取るようにご要請があります。①クラブ基盤の強化②成果多い奉仕

を③奉仕の資源に関心を④指導者の育成⑤研修と教育の充実、以上の5点であります。この背景には、現在、我々ロータリーが於かれています危機的状況があると推察をしております。会員の減少、クラブ運営のマンネリ化、さらには独自性の乏しい奉仕プロジェクト、我々が直面しております問題は、日々その深刻さを増しています。我々は、諸問題を一つ一つ乗り越えてロータリーの未来を切り開いていかなければなりません。その勇気を今日、ガバナーより頂けるものと確信をしております。会員諸兄におかれましては、今日のガバナーのお話をお聞き頂き、ロータリーの現状を充分にご理解して頂いた上で、今後のクラブ運営に一層のご協力をお願いしまして、歓迎のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。





皆さま、こんにちは。今日は蒲郡RCと豊川宝飯RCに訪問させて頂き

ます。すでに神野ガバナー補佐から両クラブの色々な情報を頂いております。クラブ計画書を見せて頂きながら楽しみに参ったわけですが、本当に素晴らしいクラブで敬服しております。

今日は57クラブ目の公式訪問になるわけですが、その都度、できましたらお昼ご飯なるべく安いものにして頂きまして、差額をロータリー財団だとか米山奨学会にご寄付頂けるとありがたいと各クラブ様に申し上げましたが、訪問して参りますと、このような由緒あるホテルでは、サンドイッチやカレーは出せない。ホテルのポリシーとしてできないということでもあります。そのようなことで、両クラブからは別の枠からご寄付を頂けるとのことで大変有難いお話を頂いております。わがままなお願いをしまして、皆様方にはご迷惑をお掛け致しましたことをお詫び申し上げます。

今日は、東名高速が集中工事をしておりまして、時間が掛かるということで、小牧を朝8時に出了ましたが、早く着きすぎてしまいました。しかしながら、会長幹事さんとじっくりと色々なお話をすることができました。本当に良かったです。

まず、蒲郡RCさんは、三浦会長、大岩幹事とじっくりお話をさせて頂き、54年の伝統がある素晴らしいクラブでございます。数年間は会員の数を維持されているということで、非常にまれな事です。日本の平均は、かつては14万人いました。今は10万人を維持するのが大変です。名古屋や尾張地区でもだいたい70%を維持しています。非常に安定した良い運営をされています。このクラブの管理運営が素晴らしいと思ったのは、織田委員長がクラブ奉仕を総括されていますが、増強とプログラムとロータリー財団を別に管轄されています。

クラブを維持していく上で、クラブ奉仕を

もう一度見直すことが大変重要なことになっていきます。クラブ奉仕は、言うまでもなく、国際、社会、職業奉仕は外向きの奉仕です。クラブ奉仕だけは、クラブ自身、会員自身の質と人生を左右する就業の道場を整える奉仕であります。従いまして、クラブ奉仕は見直してみる必要が随所にあります。まず増強は、どちらのクラブも大変順調にっていますが、一度入会されたロータリアンが終生ロータリーを理解してロータリーの動きを共有しながら誇りを持って世の中で活動できるため、ロータリアンの生涯教育をやっぴりお互いにやらないといけない時期に来ていると思います。クラブ奉仕の中には、ロータリー情報委員会があります。地区内のクラブをみていますと、新入会員へ情報提供している機能はありますが、ロータリアンの素晴らしさなど生涯教育的な情報提供はなかなか難しいようです。特にITを駆使する時代には、どなたかホームページを充分に利用して頂きまして、情報を皆さんに提供して頂く事が必要かと思えます。奉仕プロジェクトでは、社会奉仕と国際奉仕が得てしてやりにくいです。特に社会奉仕は、行政やすでにあるプロジェクトに協賛をしたり援助したりする奉仕になりやすいのですが、両クラブともに、地域に必要なニーズを良く理解していらっしゃいます。

豊川宝飯RCは、井指会長と山城幹事さんと良くお話をさせて頂きました。こちらのクラブも活気のある積極的で労力を惜しまないクラブであるとの報告を受けております。こちらのクラブも奉仕について良く検討された上で行っていらっしゃいます。本日の訪問の時に伴先輩に会えるのを楽しみにしておりました。伴さんは、地区のクラブ奉仕委員会の先輩でございまして、伴さんの後で委員長を務めました。このように立派な先輩のおられるクラブだと大変感心しております。豊川宝飯RCも増強とロータリー財団など重視されておられます。特に奉仕プロジェクトの中で、高校生ボランティアに、お互いにボランティアの意義を教えながら一つにまとめて活動をされています。ロータリーの社会奉仕が弱かったのは、一定の事業などへの援助になりがちだったのです。ロータリーが一般の人たちを巻き込んで、ロータリー社会地域共同体という形で地域奉仕が要求されるなかで、見事に成しつつあります。もうひとつには、「長期事業計画委員会」を作られております。ロー

タリーは単年度制ですので、一年でプロジェクトが終了することがございます。もう一度考えてみなければならないことは、クラブの委員会構成が単年度であっても、そのクラブが地域に対して奉仕することが単年度で終了することはほとんどありません。内容の伴った事業ほど継続性が必要であります。是非、近未来的なクラブの方向と奉仕の質と内容と継続性を続けて頂きたいです。これはロータリーの単年度制の掟をやぶる行為ではありません。これは、クラブリーダーシッププランの中の骨子そのものです。クラブ奉仕がクラブ管理運営を本当にしているかどうか、増強がクラブ全体の問題としてやっているかどうか、そしてクラブが一生涯の意味を我々が共有できる生涯教育の機能を持っているかどうか。今、問われています。奉仕といえどもロータリーらしい、地域のニーズにあった奉仕であるか、漠然としているだけでは資金が無駄になります。

ガバナー公式訪問の責務として、R Iのテーマと地区のテーマについて確認のためにお話をさせていただきます。今年のR I会長は、ウィルキンソンさんで、カナダの公認会計士です。テーマは「ロータリーは分かちあいの心」です。「ROTARY SHARES」であります。SHARESについて確認ですが、分かちあうというものは何を分かちあうかと申しますと、これは愛でございます。愛を分かちあうという行為は、相手に必ずいつも親切心を発揮なさい。これがロータリーの分かちあうことです。いらなくなったものを他人に与えるのではなく、自らが他人のために我を忘れて、自分を捧げるといことが分かちあうという意味だと言っています。

地区としましても今年はテーマをつくりました。「違いをもたらそう」です。違いをもたらそうという意味は、今の世の中は、いろいろな奉仕しようとする人々でいっぱいです。どの団体も世の中のためになろうとする人たちです。団塊の世代の人たちも第二の人生として何かをしたいと思っています。その中でロータリーはどのような意味を持った団体であるのか、ほとんど知られていません。慈善団体の一つであろうと思われています。我々も違いをもたらす働きをしてきませんでした。この違いは、私たちは発生段階から他の慈善団体とは違います。かなりの知識と経験を積まれた実業人と専門職業人の集まった団体で、

他には類を見ない団体で、その中で厳しい掟をつくりました。毎週一回必ず集まって、自己を研鑽し、そしてロータリーが掲げている奉仕の理念を分かり合おうというために集まっているのです。ここが違うのです。人類社会至上こんなすごい現象が起こってロータリーという団体があること自体が奇跡であると言われていています。私たちは普通の人間ですからロータリーの存続は奇跡とは思いません。

ロータリー財団についての話をします。地域に向って良い奉仕をされています。これは、1人では出来ないわけで、ロータリーに入ったからこそ出来ることでありますし、大きな結果を

もたらしています。私どもは、それだけではなく、目に見えない

ところでも凄いことが起こっているわけです。ちょっと言いにくいのですが、両クラブともにロータリー財団の寄与率があまり高くありません。ロータリー財団へ毎年ひとり100ドル寄付の約束があります。10年前に、ポリオプラスというプロジェクトを立ち上げました。今日、600億円が世界中のロータリアンから集まりました。今まで10年間に、世界中の子供に約20億人にポリオワクチンを飲ませています。赤ちゃんの時に目薬のように2滴のワクチンを飲ませるだけで、脊髄性小児麻痺という病気から一生救われます。ロータリーを中心にボランティアでワクチンを投与して世界中の子ども達を助けています。毎年、今年こそロータリーがノーベル平和賞をもらうのではないかとされているぐらいです。

世界の中で一番幸せにする方法として、ロータリーが見つけたことは、字の読めない人に字を読み書きできるようにしたことです。読み書きできない人は、この地球上に10億いると言われていています。短期間に字が読めるようになる方法をロータリアンがみ出しました。「語学力強化研修講座」といって略して「CLE」と言います。これを中国、インド、アフリカなどでこのプロジェクトをしていま



す。世界が抱えている問題として人口爆発があります。日本の女性の一生の出産は2人を切っていますが、世界中では一人当たり7～8人の子供を生む女性の国があります。そのため人口がどんどん増えています。現在の地球上の人口は63億で、これが80億を超えると資源の面、環境の面からも限界に達すると言われていています。今の増え方ですと2050年には100億になるということが確実となっています。その多産の国の人々にこの事実を伝えるにも字が読めないと伝えられないのです。10億うちの7割が女性だと言われております。その人たちに人口のコントロールのためにお産のこと、エイズのことなど伝えないといけません。国民の半数がHIVの保菌者である国もあり、その危険性も伝えないとなりません。ソルトレークシティの国際大会では、識字率向上のためのCLEに成功した人たちの事例が紹介されました。

ロータリー財団として我々が集めたお金が、3年経ちますと「地区財団活動資金（略してDDF）」として地区に帰ってきます。毎年4,000万円ぐらいあります。20%は地区補助金としてクラブに還元されます。豊川宝飯RCが昨年この補助金を利用した事業（教室の空気はビタミン材事業）をされたと聞いております。今年は600万円用意しております。毎年ありますので、来年度の会長さんご準備も進めて行って頂きたいと思っております。

ロータリー財団は、たくさんの人々を助けています。ポリオでも成功しています。識字率向上のためにも大きな仕事をしています。それ以外に、財団奨学生として年間800人に奨学金を支給しています。ご承知のように緒方貞子さん（元国難民高等弁務官）も東京からワシントンに留学した第1号の財団奨学生です。緒方さんのように、財団奨学金を受けた人たちが世の中で活躍をしてくれています。余談ですが、米山奨学会は日本独自であります。ロータリー財団が一年に世界で800人奨学金を支給していて、米山奨学会だけで一年に800人に奨学金を支給しているわけです。それが非常に良い結果を生んでいます。例えば2002年の日韓のワールドサッカー開催に当たって、当時の在日韓国大使の方が、かつて米山奨学生として韓国から東京大学で国際学を勉強されていた方だったそうです。そのようなことで、当時、小泉首相と一緒に努力されたと聞いています。話をロータリー財団

に戻しまして、ポリオが撲滅宣言を出すところまで近づいています。現在0に向って限りなく努力をしています。これだけのプロジェクトを済ませた後のロータリーがどちらに向って行くだろうか、これからは平和に向っていかうとしています。世界中どこでも戦争をしています。局地的な紛争もあるし、国と国との戦争もあります。特徴としては、宗教の思想や理念のぶつかり合いです。政治的なことではありません。そのなかでロータリーこそ、この問題に働きかけを出来るころなのです。イスラエルにもトルコにもロータリークラブはあります。ロータリークラブがスポンサーをして、両方の若者を集めて平和のシンポジウムを年1回、国連ロータリーデーに行っています。最近では、イスラエルとパレスチナの若者をスイスのロータリークラブがスポンサーを務めて、両国の若者に平和についてのシンポジウムを開催して、大変成功したと言われていています。

私たちロータリーは、いろいろなところで活動を行っています。それだけのことができる時間とお金と思想と理念をもった集まりですから、このように大きなことが出来るわけです。私たちの力で世界を変えようという時代です。是非、皆様方にもそのような目で、それぞれのクラブが活躍されるようお願いしまして卓話とさせていただきます。どうもありがとうございました。

★謝辞

井指光基会長



今日は、会長幹事懇談会でいろいろとお話を伺いました。話を伺うなかで、江崎ガバナーと河村地区幹事の人柄に感動いたし

ました。大変有意義な懇談会で感謝しております。ありがとうございました。また例会での卓話でも、ロータリー愛についての話を伺い、またそれぞれのクラブにあった活動に進めていくようにとのご指導を頂きました。これからも地元に着目した奉仕を行って参りたいと思っております。

また本日は、蒲郡RCクラブの皆様方には、例会設営と運営等して頂きまして、大変ありがとうございました。感謝申し上げます。

★会長幹事懇談会

例会開催前に合同の会長幹事懇談会が開催され、江崎ガバナー、河村地区幹事より、クラブ運営に関するアドバイスを頂きました。



ロータリー豆知識

国連とロータリー

まもなく今年もロータリーデーがやってきます。2007年11月3日です。

国連とR Iの関係は1945年、サンフランシスコで行われたロータリー国際大会の提案として決議された国連創立チャーターカンファレンスに49人のロータリアンが29団体の中に代表として参加したことに始まります。

国連設立後の10年間、R Iは主要な会議にロータリアンをオブザーバーとして送り、国連とロータリーの関係を保って国連を軌道に乗せたといわれています。

同年ロータリーは国連の機能を運命つける Economic & Social Council (ECOSOC) (国連経済社会理事会)の設立にも指導的役割を果たし、最大のNGOリーダーとして世界中にECOSOC下部機関を広めました。

1943年にはUNESCO設立がロンドンにおけるロータリー世界大会にて提案され実現しました。その他ロータリーは多くの“Rotary Representative Network”(国連・ロータリー代表ネットワーク)が現在までに多くの実績を重ねています。11月3日には毎年ニューヨーク・ロータリークラブのスポンサーで国連ロータリーデーが開催されます。今年のテーマは“ROTARY & UNITED NATION : SHARING”で今年は同時にユースプログラム(高校生レベル)も行われる予定です。

ガバナー月信9月号より抜粋

会報担当者：小野喜明会員

このウィークリーは再生紙を使用しています。